

公立大学法人和歌山県立医科大学

平成 26 事業年度の業務実績に関する評価結果

【素案】

和歌山県公立大学法人評価委員会

公立大学法人和歌山県立医科大学の平成26事業年度に関する業務実績の評価について

和歌山県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）は、地方独立行政法人法第28条の規定により、公立大学法人和歌山県立医科大学（以下「法人」という。）の平成26年度業務実績に関する年度評価を実施しました。

年度評価は、中期計画に基づき法人が作成した年度計画について、評価委員会が当該年度の実施状況の調査及び分析を行い業務実績全体について総合的に評定を行うものです。

今回の年度評価は、第二期中期目標期間の3年目の評価で、法人から提出された業務実績報告書及び法人に対するヒアリング等により、年度計画の実績及び法人の自己評価の妥当性を総合的に評価しました。

評価委員会としては、今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、効率化、活性化等が図られ、教育研究並びに診療活動の一層の充実と法人の業務運営状況に対する県民のより一層の理解が深まることを期待します。

平成27年8月

和歌山県公立大学法人評価委員会

目 次

第1 全体評価

1 総 評	1
2 特色ある取組等	1

第2 項目別評価

1 教育研究等の質の向上	
(1) 教 育	3
(2) 研 究	4
(3) 附属病院	5
(4) 地域貢献	6
(5) 国際交流	7
2 業務運営の改善及び効率化	
(1) 法令及び倫理等の遵守並びに内部統制 システムの構築等運営体制の改善	7
(2) 人材育成・人事の適正化等	8
(3) 事務等の効率化・合理化	8
3 財務内容の改善	
(1) 自己収入の増加	8
(2) 経費の抑制	9
(3) 資産の運用管理の改善	9
4 自己点検・評価及び情報提供	
(1) 評価の充実	9
(2) 情報公開等の推進	10
5 その他業務運営	
(1) 施設及び設備の整備・活用等	10
(2) 安全管理	10
(3) 基本的人権の尊重	10

第1 全体評価

1 総 評

○ 「公立大学法人和歌山県立医科大学は、医学及び保健看護学に関する学術の中心として、基礎的、総合的な知識と高度で専門的な学術を教授研究し、豊かな人間性と高邁な倫理観に富む資質の高い人材の育成を図り、地域医療の充実などの県民の期待に応えることによって地域の発展に貢献し、人類の健康福祉の向上に寄与する。」という第二期中期目標のもと、第二期中期計画の3年目となる平成26年度は理事長を中心とした経営管理体制の強化によって中期計画達成に向けての体制づくりが着実に進んでいる。

また、「開かれた大学」及び「地域への貢献」という目標のもと、大学として教職員が一丸となり教育・臨床・研究の各側面において様々な取り組みを行い、総体的には掲げた年度計画を概ね達成し、一段階上のステージに到達した1年であったと認められる。

○ 平成26年度計画107項目の業務実績を確認したところ、7項目について「年度計画を上回って実施している。」と認められ、100項目が「年度計画を十分に実施している。」と認められた。これらを総合的に勘案すると、中期目標・中期計画の達成に向け、全体的には概ね順調に進んでいると評価する。

○ 特に、以下の取組について評価する。

- ・ 看護師・保健師国家試験合格率が100%を達成した
- ・ 保健看護学部において、FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会による教員相互参観を実施し、参観授業数・参観者数ともに増加した
- ・ 臨床研究センターを開設し、臨床研究を活性化させる体制を構築した
- ・ 形成外科及びリウマチ・膠原病科の開設や、病理診断科を標榜し病理診断体制の強化を図る等、患者のニーズに応じた診療体制を確立した
- ・ ミャンマー連邦共和国保健省と交流協定を締結したほか、関西公立医科大学・医学部連合（KNOW）を通じてベトナム社会主義共和国保健省と交流協定を締結した
- ・ 理事長を中心とした経営管理体制の強化を図り、インセンティブ制度の導入、医療技術職員の増員等を実施した
- ・ 短時間正規職員制度や学内助教の短時間勤務制度を新設し、女性職員が働きやすい環境が整備された

2 特色ある取組等

【教育】

○ 大学院医学研究科修士課程における設置科目を充実させるため、1学年を対象にした共通科目の講義数を増加させ、博士課程との共通講義・学内外の講師による特別講義を実施し、専門的知識と研究能力の向上を促進した。

○ 平成26年4月に大学院保健看護学研究科博士前期課程に、専攻分野専門科目を追加し、社会人に配慮した修学期間3年のがん看護専門看護師コースを開設した。

【研究】

- 小児ネフローゼ症候群治療に関する長き国際論争に結論を出す研究成果の発表を行ったほか、産学共同研究による動脈硬化の新しい画像診断法の開発や直腸がんロボット手術等を実施した。
- 平成 26 年 10 月に臨床研究センターを開設し、生物統計に関する専門家を招聘して臨床研究の実施に不可欠となる統計知識に関するセミナー等を継続的に実施することとしたほか、基礎研究から臨床研究、実用化までの過程を切れ目なく支援できるよう人員体制の整備を行った。

【附属病院】

- 東棟に増設された手術室、内視鏡室の稼働により、高度で先進的ながん治療等を行う体制を強化するとともに、化学療法センターのベッド数を 15 床から 20 床に増床し、腫瘍内科を設置したことにより、がんに対する化学療法の体制を充実強化した。
- 新たな診療科として形成外科及びリウマチ・膠原病科開設を決定するとともに、教授選考を開始した。
- 平成 26 年 6 月 1 日から病理診断科を標榜するとともに病理診断体制の強化を図り、より迅速な病理診断が可能となった。
また、平成 27 年 1 月 1 日より呼吸器内科・アレルギー内科から呼吸器内科・腫瘍内科に標榜科名を変更し、様々ながん種に対する高度かつ専門的な化学療法実施体制を充実強化した。
- 看護キャリア開発センターを設立し、新人看護職員研修制度の充実を図るとともに、実践能力向上に向けて教育・研究を含めた継続教育プログラムを再構築した。
また、地域の医療機関等の看護スタッフに対しても受入研修事業を開始し、専門・認定看護師が主催する研修への参加を促進した。

【運営体制】

- 理事長のリーダーシップのもと、インセンティブ制度の導入、医療技術職員の増員等を行った。
- 短時間正規職員制度や学内助教の短時間勤務制度等の新設を決定し、女性が働きやすい環境づくりに努めた。

第 2 項目別評価

評定の区分	中期目標・中期計画の達成に向けて、 S・・・特筆すべき進捗状況にある。 A・・・順調に進んでいる。 B・・・概ね順調に進んでいる。 C・・・やや遅れている。 D・・・重大な改善事項がある。
-------	---

1 教育研究等の質の向上

(1) 教育

【評定】 **A** (順調に進んでいる。) **自己評価**

年度計画の記載 38 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

高い評価とした場合 **A** (Ⅱ-0、Ⅲ-28、Ⅳ-10)

低い評価とした場合 **A** (Ⅱ-0、Ⅲ-36、Ⅳ-2)

【評価及び指摘事項】

〈医学部〉

○ 平成 27 年度から医学部 1 年生に TOEFL を受験させることを決定したことにより、今後の英語教育の充実が期待される。

○ 大学 4 年時に実施する共用試験等の合格ラインを見直したこと等により、医師国家試験合格率が新卒者 96.1%、新卒者を含む全体で 96.4% と前年度に比べて大きく改善したことについて評価する。

また、新卒者の国家試験合格率を全国上位にすることを目指し、進級判定をこれまでは不合格科目が 1 つの場合仮進級としていたが、平成 27 年度からは全ての科目に合格していなければ進級できないよう変更したこと等について評価する。

○ 県民医療卒・地域医療卒卒業者の医師国家試験合格率が引き続き高い(県民医療卒:100%、地域医療卒:100%) ことや、一般卒卒業者についても前年度より改善(H25:91.4%→H26:94.7%) していることについて評価する。

○ 1 年次、2 年次の留年数者数が依然として多く、殊に 6 年生の留年者も増加しているため、その真因がどこにあるのか留年者への聞き取り調査の実施や教養課程の見直しも含め、早急に検討する必要がある。

〈保健看護学部〉

○ 看護師国家試験及び保健師国家試験の合格率が 100%であったことについて評価する。

○ 保健看護学部において、FD (ファカルティ・ディベロップメント) 委員会による教員相互の授業参観を実施し、参観授業数及び参観者数が前年度に比べ大幅に増加していることについて評価する。

	H25	H26
参観授業数 (前期)	5 コマ	13 コマ
参観授業数 (後期)	2 コマ	12 コマ
参観者数 (延べ)	7 名	30 名

〈医学部・保健看護学部〉

○ 電子ジャーナル保有数が昨年度からさらに増加し、図書館機能の利便性を向上させたことについて評価する。

	H25	H26
電子ジャーナルタイトル数	3,681 種類	4,152 種類

○ メンター制度、オフィスアワー制度等を実施し、学生への支援体制が充実していること

や、5年生全員を対象に引き続き学長ランチミーティングを実施していることについて評価する。

また、学習支援を行う担任教員等に過負荷とならないよう支援内容や支援方法等のシステム化を図り、支援の継続を期待する。

さらに、学生への教員からの支援体制と併行して、相談支援専門員やカウンセラーによる専門的な支援の実施が望まれる。

〈大学院医学研究科〉

- 医学研究科修士課程の1年生を対象にした共通教育科目の講義数を25年度の105回から118回に増加し、博士課程との共通の医科学研究法概論、学内外の講師による特別講義を実施し、専門的知識と研究能力の向上を促進したことにより、教育の活性化が期待できる。
- 医学研究科博士課程の論文発表数が増加していることについて評価する。

反面、国際学会発表数が減少していることについての分析を行い、改善策を講じる必要がある。

	H25	H26
論文発表数	49	60
国際学会発表数	51	39

〈大学院保健看護学研究科〉

- 平成26年4月に大学院保健看護学研究科博士前期課程に、専攻分野専門科目を追加し、社会人に配慮した修学期間3年のがん看護専門看護師コースを開設したことにより、保健看護学研究に関して高度な知識を有し、地域に貢献できる教育者や研究者の育成が期待される。

(2) 研究

【評定】 **A** (順調に進んでいる。) **自己評価**

年度計画の記載9事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

高い評価とした場合 **A** (Ⅱ-0、Ⅲ-5、Ⅳ-4)

低い評価とした場合 **A** (Ⅱ-0、Ⅲ-8、Ⅳ-1)

【評価及び指摘事項】

- 先端医学研究所生態調節機構研究部に新たに教授が着任したことや、新部門の設置に向けた検討を重ねていることについて評価するとともに、当該分野における今後の研究の進展を注視したい。
- 小児ネフローゼ症候群治療に関する長き国際論争に結論を出す研究成果の発表を行ったほか、産学共同研究による動脈硬化の新しい画像診断法の開発や直腸がんロボット手術を実施したことについて評価する。
- 英語原著論文数のカウント方法について、平成25年度までは学内の教員が筆頭著者でない者が含まれていたため、平成26年度からは学内教員が筆頭著者である論文のみを調査対象としているが、共著である場合や大学院生が筆頭者の論文も高く評価されるので、それらについてもカウントすることが望まれる。
- 科学研究費補助金審査において、わずかな差で不採択となった若手研究者を対象に研究助

成を行い、学内の研究を推進したことについて評価する。

- 優れた研究を行った若手研究者を顕彰する「次世代リーダー賞」の受賞者が教授に昇任する等、優れた人材を輩出できたことについて評価する。
- 平成 24 年度から実施している治験実施業務優秀医師表彰を引き続き実施する等臨床研究の活性化を図った結果、治験実施率が増加していることについて評価する。

	H25	H26
治験実施率	53.0%	62.5%

- 平成 26 年 10 月臨床研究センターを開設し、センター長及び副センター長を配置し臨床研究を活性化するための組織体制の強化を図り、平成 27 年度からは、データマネージャー、英文エディター、知財コーディネーターを配置することを決定し、臨床研究支援にかかる体制整備を進めたことについて評価する。
- 特許出願件数が前年度より減少（H25：4 件→H26：2 件）しているため、さらなる強化が必要である。

(3) 附属病院

【評定】 **A**（順調に進んでいる。） **自己評価**

年度計画の記載 26 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

高い評価とした場合 **A**（Ⅱ－0、Ⅲ－17、Ⅳ－9）

低い評価とした場合 **B**（Ⅱ－1、Ⅲ－24、Ⅳ－1）

【評価及び指摘事項】

- 東棟に増設された手術室、内視鏡室が稼働したほか、化学療法センターのベッド数の増床、腫瘍内科の設置により高度で先進的ながん治療等を行う体制が充実強化されたことについて評価する。
- 機器更新に伴いリニアックの稼働を中止したことにより、放射線治療の患者が減少したことはやむを得ないが、悪性腫瘍手術件数や化学療法施行患者延べ数も前年度に比べて減少しているため、その要因分析が求められる。
- 新生児から高齢者に至るまで幅広い年齢層の患者を対象とした救急医療活動の実施について評価する。今後、総合周産期母子医療センターのさらなる体制充実を期待したい。
- 救急医療において、高度救命医療を中心に活発に運営され、厚生労働省が行う救命救急センター充実段階評価では全国 266 施設中 8 位（うち、高度救命救急センターでは全国 32 施設中 2 位）に順位付けされたことについて評価する。
- 連携登録医が 33 名増加し 789 名となり地域医療機関との連携強化に努めていることや、連携登録医研修会を開催し「顔の見える連携」を実施していることについて評価する。
- 附属病院本院において、返書率（紹介状に対する返信として紹介元の医師に文書を送付した割合）がほぼ 100%となったことについて評価する。
- 紀北分院において、医療安全研修会を開催し、その開催数及び参加者数が増加していることについて評価する。

	H25	H26
研修会開催数	7回	9回
参加者数	353名	630名

- 附属病院本院において、感染防止対策研修会の参加者数が増加し、職員の感染対策の知識向上が図られていることについて評価する。

	H25	H26
参加者数	3,493人	3,930人

- 附属病院本院において、院内外からの感染症治療や感染対策の相談を受け付け、各部署の問題解決を促進したことについて評価する。

	H25	H26
相談件数	662件	818件

- リウマチ・膠原病科、形成外科の開設や病理診断科の標榜等の体制強化を図ったことについて評価する。

- 紀北分院においては、「断らない医療」を実践するため、地元消防、医師会、医療機関等との連携を強化し、病院群輪番制当直体制に参画し、一次・二次救急の受入れについても「断らない医療」への意識を高め、救急受入件数増に繋げることができたことについて評価する。

	H25	H26
病院群輪番制当番日の収容状況	142件	165件

	H25	H26
救急車搬送件数	552件	617件

- 新たな専門医制度に対応できるよう、地域医療支援センターが主体となり、地域医療卒業生のキャリア形成モデルの一つとして、家庭医療専門医（総合診療専門医）後期研修プログラムを作成したことについて評価する。

- 看護キャリア開発センターを設立し、新人看護職員研修制度の充実を図るとともに、実践能力向上に向けて教育・研究を含めた継続教育プログラムを再構築したことについて評価する。

- 新人看護師研修の実施や専門・認定看護師が主催する研修会の開催等、地域の医療機関を担う看護師に対する積極的な教育活動の実施について評価する。

今後、保健看護学部とも連携し、アクティブラーニングを活用し、さらなるボトムアップが期待される。

(4) 地域貢献

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載4事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

高い評価とした場合 A (Ⅱ-0、Ⅲ-3、Ⅳ-1)

低い評価とした場合 A (Ⅱ-0、Ⅲ-4、Ⅳ-0)

【評価及び指摘事項】

- 小・中学生及び高校生を対象とした出前授業の実施数・受講者数が減少しているため、次年度以降の活動をさらに発展させていくことが期待される。
- 産官学連携推進の取り組みとして、平成 25 年 7 月に「包括的連携協定」を締結した住友電気工業株式会社との共同研究についてさらなる進展が期待される。

(5) 国際交流

【評定】 **A** (順調に進んでいる。) **自己評価**

年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

高い評価とした場合 **A** (Ⅱ-0、Ⅲ-2、Ⅳ-1)

低い評価とした場合 **A** (Ⅱ-0、Ⅲ-3、Ⅳ-0)

【評価及び指摘事項】

- 海外の大学との学術交流が活発になっていることは評価できるが、今後も交流の機会を増やす努力を継続し、より一層発展させていくことが期待される。
- 締結した協定に基づき、海外の大学との学術交流及び学生交流を計画的に実施、交流を通じて教員及び学生の国際的な視野を広げることができたことについて評価する。
なかでも、新たに協定を締結したミャンマー連邦共和国との交流は一過性に終わらせることなく、実質的な国際交流が求められる。

2 業務運営の改善及び効率化

(1) 法令及び倫理等の遵守並びに内部統制システムの構築等運営体制の改善

【評定】 **A** (順調に進んでいる。) **自己評価**

年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

委員の評価は自己評価のまま

【評価及び指摘事項】

- インセンティブ制度の導入、医療技術職員の増員等、理事長のリーダーシップのもと効率的な経営管理体制の強化を図ったことについて評価する。
- 平成 24 年度に発覚したセクシャルハラスメントや平成 25 年度に発覚した科学研究費の不適正受給を受け、危機対策室、監事及び監査法人が不正防止や法令遵守に関する情報を交換する「場の設定」や、監査の結果やそれぞれ知り得た情報を互いに共有する仕組みを作る等、一層質の高いコンプライアンス体制としたことについて評価する。
- 全国的に公的研究費の不適正使用や研究活動における不正行為が多発していることから、国において「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」の改正や、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」の決定などが行われたことを受け、両ガイドラインへの対応方針を決定し、平成 27 年 4 月から適用することとしたことについて評価する。

(2) 人材育成・人事の適正化等

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を上回って実施している。」又は「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

委員の評価は自己評価のまま

【評価及び指摘事項】

- 教員評価制度を実施していることは評価できるが、今後はその評価結果をどのように活用していくのかを明確にすることが望まれる。
- 短時間正規職員制度を新設し、育児等によりフルタイム勤務が難しい女性職員でも働きやすい環境やキャリアを継続できる体制が整備されたことについて評価できるが、今後は、看護職・助産師以外の職種にも広げていくことが期待される。
一方で、短時間勤務での医療従事者の増加により、組織全体に与える影響を分析する必要がある。

(3) 事務等の効率化・合理化

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

委員の評価は自己評価のまま

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

3 財務内容の改善

(1) 自己収入の増加

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

高い評価とした場合 A (Ⅱ-0、Ⅲ-5、Ⅳ-2)

低い評価とした場合 A (Ⅱ-0、Ⅲ-7、Ⅳ-0)

【評価及び指摘事項】

- 附属病院本院において、病床利用率の向上を図るため病床管理委員会を定期的を開催し、各診療科優先病床数を見直し、効率的な病床の振り分けを行った結果、新入院患者数は前年度を上回り、平均在院日数も前年度と比較して短縮することができ、紹介率・逆紹介率についても著しく向上していることについて評価する。

また、前年度に比べ手術件数が660件増加したことについても評価する。

	H25	H26
新入院患者数	16,091人	16,517人
平均在院日数	14.5日	14.1日

紹介率	75.0%	76.1%
逆紹介率	55.0%	70.1%

- 附属病院本院において、外来延べ新患者数が減少しており、外来診療単価が前年度同額と伸び悩んでいることについて原因を分析する必要がある。
- DPC制度における平成27年度の医療機関別係数のうち機能評価係数Ⅱについて全国の大学病院本院80病院中第2位で上位を維持していることについて評価する。
- 附属病院本院・紀北分院ともに査定減額率が高くなっているため、その内容を分析し改善に努められたい。
- 科学研究費助成事業の採択件数202件（対前年度6.3%増）、採択金額335,920千円（対前年度0.7%増）と増加していることについて評価する。

(2) 経費の抑制

【評定】 **A**（順調に進んでいる。） **自己評価**

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

委員の評価は自己評価のまま

【評価及び指摘事項】

- 附属病院本院は、平成25年度医薬材料比率が全国国公立大学附属病院50病院中3位とDPCの複雑性（平均在院日数が長期化する可能性が高い患者の比重）が0.01526と公立大学附属病院の中で最も高いにもかかわらず、経費削減に努力していることについて評価する。
一方で、平成25年度自治体病院医薬品値引き率の状況が全国順位236病院中102位（自治体病院共済会調べ）と低いので、原因の分析が求められる。

(3) 資産の運用管理の改善

【評定】 **A**（順調に進んでいる。） **自己評価**

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

委員の評価は自己評価のまま

4 自己点検・評価及び情報提供

(1) 評価の充実

【評定】 **A**（順調に進んでいる。） **自己評価**

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

委員の評価は自己評価のまま

【評価及び指摘事項】

- 平成27年度において、医学教育分野における国際認証の取得を目指す取組を推進することを決定したことについて評価する。

(2) 情報公開等の推進

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載1事項が「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

委員の評価は自己評価のまま

5 その他業務運営

(1) 施設及び設備の整備・活用等

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

委員の評価は自己評価のまま

【評価及び指摘事項】

- 大規模地震発生時における災害医療体制の確保を図るため、防水扉設置や高圧幹線設備改修などの津波対策工事が実施されたことについて評価する。

(2) 安全管理

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

委員の評価は自己評価のまま

【評価及び指摘事項】

- 全職員を対象とした災害・防災・消防に関する院内訓練や講習会を実施するとともに、院外で実施される広域的な防災訓練に参加し、消防・防災に関する職員の意識向上や防災体制の整備に努めたことについて評価する。

(3) 基本的人権の尊重

【評定】 A (順調に進んでいる。) 自己評価

年度計画の記載2事項すべてが「年度計画を十分に実施している。」と認められ、これらの状況を総合的に勘案したことによる。

委員の評価は自己評価のまま

【評価及び指摘事項】

- 全職員を対象に、附属病院の顧問弁護士を講師に迎え「全学人権・同和研修」を合計5回にわたり実施したことについて、評価する。
- セクシャルハラスメントのみでなく、各種ハラスメントの予防を視野に入れた目標設定を行っていることを評価する。

今後は、相談体制の充実とともにハラスメント相談対応者の定期的な会議の開催を行うことにより対応策の情報を共有し、組織全体として取り組む体制の構築が期待される。

<資料>

○和歌山県公立大学法人評価委員会 委員名簿（敬称略）

氏 名	役 職 等
川 渕 孝 一	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療経済学分野教授
坂 本 す が	公益社団法人日本看護協会会長
瀬 戸 嗣 郎	静岡県立こども病院院長
辻 省 次	東京大学大学院医学系研究科脳神経医学専攻神経内科学教授
◎ 中 川 武 正	白浜町国民健康保険直営川添診療所所長
中 西 憲 司	兵庫医科大学学長

（注）◎印は委員長

○業務実績の評価に係る和歌山県公立大学法人評価委員会の開催状況

- ・ 第1回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成27年 7月 6日開催
- ・ 第2回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成27年 7月28日開催
- ・ 第3回和歌山県公立大学法人評価委員会 平成27年 7月21～27日
（書面審議による開催）

○大学収容定員等（平成26年4月1日現在）

	収容定員（人）	収容数（人）
医学部	595	605
保健看護学部	320	331
医学研究科	196	158
修士課程	28	32
博士課程	168	126
保健看護学研究科	24	21
助産学専攻科	10	9

○教職員数（平成26年4月1日現在）

総 数（人）	1,502
教員	351
事務職員	114
技術職員	4
現業職員	9
医療技術部門職員	193
看護部門職員	824
研究補助職員	7

（出典）平成26年度和歌山県立医科大学概要